



入院というクルーズ
予期せぬ出来事(2)

老いば誰もが体力端で観ながらフィナーは衰え弱くなる。しかしでは思わず台本にもしながらそれが受け入らない「きょうほど下松市謝と希望をもって受け入れよう」と思ったことはありませぬが。

断しがちである。「と。満員の会場から油断で思い出すのは、万雷の拍手が起こり、座頭市のシナリオライ 東條さんも上機嫌。大ター、東條正年氏のご勢の素人出演者をつなものと、そういうえ

単身で東京で活躍されたが、高齢になり、奥 ところが、テニスを「八十日間世界一周」を資料を取り寄せた。妻は三ヶ月は無理二人部屋と四人の大部分で入院生活クルーズに似ている。客室並み。入院した病側の方がはるかにいい。院からは徳山湾も見え「ならば、娘が払うとい

最後の作品となったはあったが、私はこの巡 どれにしようか、海側 ツド。翌朝、大部屋自体 や看護師のスタッフ音楽劇「星降る街・下 礼の道に、座頭市、一瞬 か否かかなり料金が は海に面しているとわ 輝いて見える。以前に比



客室か病室の違い(廊下の両側は部屋)

失ったと今も残念に思う。以来、風邪には気をつけているつもりだが、予定していた上京をあきらめるだけではずまず、入院する結果となる。



部屋から海が見えるのは最高だ!!

数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ 数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ 数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ

数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ 数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ

数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ 数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ

数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ 数年前、屋のスペースでゆったり 今日、入院クルーズ